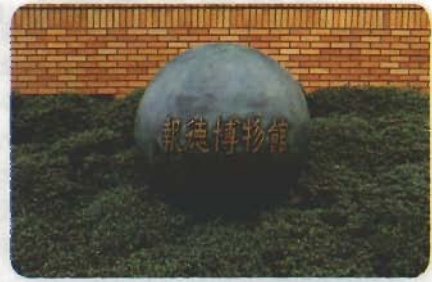


## 報徳博物館

友の会 だより  
No.1

二宮尊徳肖像 神奈川県指定重要文化財

この絵は二宮尊徳の56歳のときの肖像です。身長182cm体重94kgの尊徳は、すぐれた体力と知力を利しての経世家で、薪を背負った少年像からは想像もつかない巨人の姿です。

小田原の有名画家岡本秋暉が、友人筋持広吉の依頼により、天保13年（1842）夏、対談中の尊徳をひそかに写生し、仕上げたものです。秋暉は渡辺華山にも教えを受け、萌清の画風にならった花鳥図を得意としています。この年に江戸幕府の御普請役格に登用された尊徳の風貌・気魄を最もよく伝えています。袷には家紋（右持ち地拔き木瓜）がつき、藩侯から拝領した小袖には大久保家の家紋（上り藤に大の字）がついています。

## 常設展示の中から

2階の常設展示室は、二宮尊徳とその門人の事業や文書・遺品および報徳運動の展開をわかりやすく展示しています。このコーナーでは、その展示品を解説します。

### ◆鶴の羽の陣羽織

尊徳が相馬侯から拝領した鶴の羽で織った陣羽織で、鶴筆とよばれています。丈が95.7cm、幅は130.1cmもある大きな灰白色のもので、よく保存されています。江戸時代の鶴は、将軍や大名の専有物でしたから、その羽毛で作られた鶴筆はたいへん格調の高いもので、普通の人では目にすることができませんでした。

白楽天は「人は鶴筆を被て立って徘徊す」と詠み、謡曲鉢木もこれを引用しています。



尊徳はこの拝領品を、郷里栢山の岡部家へ贈りました。18歳のとき伯父万兵衛の宅を出て、まず厄介になったのが、当時名主だった岡部伊助の家でしたから、その恩義に報いるために当主善右衛門に贈ったのです。この鶴筆を作るために全国から180羽の鶴が集められたと伝えられています。

### ◆尊徳自作の大神宮

尊徳は文化7年(1810)24歳のとき、一家再興のめどがつき、この年伊勢参宮に旅行しています。さらに京都・奈良・大阪・金比羅などにも足をのばし、見聞を広めています。

この大神宮は尊徳青年時代の手作りで、他家に譲られたものです。中には伊勢神宮の天麻(神符)のほか、万人講の手形・秋葉三尺坊の御札・富士講の御札などが納められています。

文政4年(1821)35歳の伊勢参宮と高野山参拝は、正月5日に出発して2月24日に帰宅する大旅

行になっています。



## 寄託資料紹介

本年1月16日(木)当館に来館された、埼玉県志木市の(株)グリーンハウス丸紅志木寮営業所の田中守男氏が持参され、寄託されたものです。

- 報徳論 草稿写本 2冊 青色表紙  
第1冊の題簽に「前編報徳記 乾」とあり、内容は「報徳論」で、片かながきである。用紙は美濃判紙だが、虫くい・癒着が甚だしい。26.2cm×18.9cm
- 報徳記 草稿写本 5冊 黄褐色表紙  
各冊表紙の肩に「共七冊」と朱書があり、内容は「報徳記」草稿の第4・5・6・7・8巻と推定される。用紙は青色野紙で、蔵書印は「相馬蔵書」と判読できる。虫くい・癒着が甚だしい。26cm×18.9cm

### ◆酒井貴資文庫の整理始まる

昭和59年末に急逝された酒井貴資氏(報徳経営研究所長、報徳福運社評議員)の蔵書が、マサ子未亡人の御厚意により、昨年6月11日に報徳博物館に寄贈されました。その量はダンボール箱約200箱におよぶ膨大なものです。

蔵書は、500冊余の報徳関係図書をはじめ、専門であった税理・税務関係、企業経営関係(特に中小企業に関するもの)、経済学関係が中心となっています。また、仏教関係、教育関係、文学関係(特に川柳)など、書籍は多分野にわたっており、故人が幅広い知識を求めていることが窺えます。

昨年12月からこの文庫の整理に着手し、閲覧カード作成の準備をしている最中ですが、一刻も早く、カードを作成して閲覧体制を整え、多くの人々が活用できるようにしたいと思います。

## トピックス

### ◆来年は尊徳生誕200年 /

昭和62年は、尊徳生誕の天明7年(1787)から数えて、ちょうど200年になります。そこで、記念大会を小田原で開催することをはじめ、各種の記念事業が、各地・各団体に検討されています。

たとえば小田原市では2カ年継続・13億9千万円の予算で栢山記念館の改築や遺跡の整備を図ることになりましたし、報徳博物館では約1千点に及ぶ「二宮家伝来資料」の整理を進め、できれば重要文化財(歴史資料)の指定に持ちこたえたい。そのほか、追々お伝えしますが、ドキュメンタリー映画や色々な出版物を企画中です。

皆様のところでも、わが家・わが社の記念事業をお考えになる一方、良いアイデアがありましたら本館までお知らせ下さるようお願いいたします。

### ◆新着図書

- 二宮尊徳「語録」「夜話」抄 佐々井典比古編  
(有)三樹書房 昭和60 237P (やまと文庫)
- 真岡市史 第3巻 近世史料編 真岡市史編さん委員会 昭和60 965P
- 小田原の近世文書目録4 小田原市立図書館編  
昭和60 162P 編者寄贈
- 集録・報徳経営 酒井貴資筆 報徳経営研究所編  
(株)ぎょうせい 昭和60 291P 編者寄贈
- 科学と宗教と哲学 大江精三著 共立出版(株)  
昭和60 186P
- 旧中村藩三つの大きな用水 富田高久編 非売品  
昭和59 87P 編者寄贈
- 報徳経巻三(第三冊)について 富田高久編 非売品  
昭和60 34P 編者寄贈
- 清心院殿の生涯 富田高久編 上、中、下編 非売品  
昭和57 3冊 編者寄贈

#### 1 金次郎か金治郎か？

—二宮キンジロウは、ふつう「金次郎」と書かれますが、それは間違いで、「金治郎」が正しいという人がいます。どちらが本当でしょうか？—

それは、どちらも本当です。親がつけてくれた名前は「金治郎」で、長男ですし、おじいさんの銀右衛門より偉くなるようにという、願いもこめられていたのでしょう。

ところが、小田原藩に登用される前後から、係の役人が間違えたのが、公文書では「金次郎」と書かれるようになりました。幕府の直臣になる時も、それがバトン・タッチされました。

ですから尊徳は、表立って藩とか幕府へ差し出す書類には「金次郎」と書き、自分でつける日記や帳簿類、また親しい人への手紙などには「金治郎」と書いて、使い分けをしていたのです。

小田原藩の役人でも、古いつきあいで事情を知っている編沢作右衛門などは、手紙や証文のあて名にも、努めて「金治郎」を用いています。

そういうわけで、どちらを書いても間違いではありませんが、「少年きんじろう」という場合には、あるいは「金治郎」のほうが適当なのかもしれません。

#### 2 尊徳は「ソントク」か？

—金治郎が本名だとすると「尊徳」というのは何ですか？ ソントクと読むと“号”のような感じですが、どうでしょう？—

おっしゃるとおり、ソントクと読んだら名前としてはおかしいですね。これは「タカノリ」と読んで、侍としての正式の名乗りにしたものです。

侍には、少なくとも2つの名前が必要です。通称と諱(いみな)です。源九郎義経、松平長七郎長頼、西郷吉之助隆盛、どれも、前のが通称で、後のが諱というわけですね。

尊徳も、侍となると諱を作らなければなりません。小田原藩時代は「治政」とか「眞保」とかを使った形跡がありますが、幕臣になったあとで、「尊徳」と決めて届け出ました。つまり、「二宮金次郎タカノリ」になったわけです。

しかし、こういうフルネームは、新年の賀詞など威儀を正す場合にだけ使われて、普段は通称一つでしたし、ことに相手に対してその諱で呼ぶことは全く失礼でしたから、間違っても「二宮尊徳殿」ということはなかったのです。

それが後世、いつの間にか「ソントク」と読んで、白石や南洲と同じ感じで使われるようになったのは、報徳の先生にあまりにもピッタリの名前だったからでしょうか。

## 二宮尊徳

### Q & A

## 第8回 企画展

地階の企画展示室は、報徳をはじめ歴史・地誌その他一般的なテーマをそのつど企画展示します。第1回企画展は二宮尊徳像ア・ラ・カルトと二宮尊徳ストーリーを企画しました。

### ◆数にとりくんだ尊徳

——小を積んで大となす——



尊徳幼年時代、おじ万兵衛から夜間の読書を止められたので、油菜を栽培したら、一握りの種から翌年には八升の収穫をえた。捨ててあった稲の

苗をもったいないと思い拾って荒地に植えたら、秋にはもみ一俵がとれた。この万兵衛家での二つの体験が、金治郎に非常な関心を与えた。

自然界をじつとみつめる金治郎はわずかな一握りの菜種が、捨て苗が、予想外の収穫となったことから、少しのものがあんなに殖える、いいかえれば、世の中に殖えないものはないということに気がついた。

人の暮らしの上でも同じで、小さなことをおろそかにせず、こつこつ積み上げていけば、かならず自力で、家の再興ができるという確信をもった。

小さい数が積み重なると大きな数になる、すなわち、小を積んで大と為す(積小為大)という自然の法則を現実生活に役立てた尊徳は、自分の家をこのようにして復興したのち、衰えた村々を興し、大名や旗本の財政を再建する仕事に後半生を捧げたが、どの場合にも、徹頭徹尾「数」にとりくんで綿密に調査し、計画立案した。

計画どおり実行したところは必ず成功した。

「数」というものは間違いのないものであった。

現実の数の積み重ねが、いかに膨大なものか、よくみて確かめてみましょう。

●会期は5月30日までです。

《毎週水曜日・祝祭日の翌日・月末は休館日》

## 昭和61年度 友の会会員募集

報徳博物館を身近なものとして気軽に利用しよう。報徳のことをはじめ、歴史や文化をグループで学ぼう。楽しいサークル活動をしよう。そしてこの館を盛り立ててやろう……。

そういった方々に会員になっていただくという趣旨です。会員になりますと、①博物館招待券の贈呈(1年間有効) ②会報・パンフレット等の贈呈 ③研修室・講堂・閲覧室等の特別利用 ④館主催行事の案内 ⑤古文書等の受託管理、館売店の割引利用、などの特典があります。

会費は個人会員年間3,000円・法人会員10,000円で、受付事務は博物館で行います。財団法人報徳福運社(郵便振替口座・横浜3-49044)に入会申込みの会費振込みをされますと、会員登録の上、会員証をお届けすることになっています。

### ◆報徳博物館友の会規則(抄)

1. この会は報徳博物館友の会という。
2. この会の事務所は、小田原市南町1-5-72

報徳博物館におく。

3. この会は、報徳博物館のすこやかな発展に協力し、身近な博物館に育てるとともに、これを活用して報徳の原理と方法をはじめ、わが国の歴史と文化をより深く、広く学ぶことを目的とする。

4. この会は、その目的を達するため次のことを行う。

- (1)博物館への情報提供及び運営協力
- (2)講座・講演会などの開催
- (3)会員相互の研さん及び親ばく行事
- (4)古文書等の寄託のあっせん

### ◆事務局から

友の会だよりは年4回の発行です。会員の皆様のご意見やリクエストは、友の会事務局あてにお願いします。また読者の広場欄を設ける予定です。

発行 財団法人報徳福運社

## 報徳博物館友の会

〒250 小田原市南町1-5-72  
電話0465(23)1151・振替横浜3-49044